

韓国人と日本人の民族服に対する意識と行動

—第1報 理論仮説の構成—

奈良女大家政 ○金 由美 奈良女大生活環境 中川早苗

【目的】日本と韓国は地理的に近い国でありながら、自然環境（気候、風土、地理的条件）、社会環境（経済、政治、社会構造）、歴史的背景などの違いによって、衣服文化は大きく異なっている。また今日では、社会の変化に伴う両国民の価値観やライフスタイル、生活意識も変化し、衣生活の変化も著しい。特に衣服文化を代表する民族服に対する意識や行動は大きく変化しているものと思われる。本研究ではこのような状況における両国民の価値観、民族意識、生活意識、および民族服に対する意識と行動について調査を行い、民族服のあり方とその意義について比較考察することを目的とする。本報では分析モデルの作成および理論仮説の構成について報告する。

【方法】まず民族服の差異をもたらしたと考えられる自然環境、社会環境、歴史的背景などを文献や資料をもとに比較検討するとともに、それぞれの民族服の特徴を用と美の側面から把握する。つぎに両国民の民族服に対する意識や行動に影響を及ぼすと考えられる要因について、ブレンストーミング法やKJ法を用いて検討し、分析モデルを作成する。作成した分析モデルにもとづいて理論仮説を構成する。

【結果】両国民の性別、年齢、職業、宗教、家族構成、結婚の有無などを独立変数に、価値観、民族意識、生活意識、衣生活意識を媒介変数に、民族服に対する意識や行動を従属変数として、前提条件にもとづく理論仮説を上位仮説、下位仮説として構成した。